

ANAホールディングス株式会社

2014年3月期第2四半期 決算説明会

代表取締役社長
伊東 信一郎

専務取締役
殿元 清司

2013年10月30日



目次

I. 決算・業績修正の概要、
及び次期経営戦略に向けて

2014年3月期 第2四半期 決算概要	P.4
2014年3月期 修正業績予想	P.5
次期経営戦略に向けて	P.6-10

II. 2014年3月期 第2四半期決算《詳細》

業績ハイライト	P.12
連結決算概要(経営成績)	P.13
連結決算概要(財政状態)	P.14
連結決算概要(キャッシュフロー)	P.15
連結決算概要(セグメント別実績)	P.16
航空事業(収入・費用)	P.17
航空事業(営業利益増減要因)	P.18
航空事業(国内・国際旅客事業)	P.19-23
航空事業(国内・国際貨物事業)	P.24-26
航空事業以外のセグメント	P.27

III. 2014年3月期 通期業績予想《詳細》

連結業績予想	P.31
セグメント別業績予想	P.32
航空事業(収入・費用予想)	P.33
航空事業(営業利益修正要因)	P.34
業績予想の前提値(旅客・貨物事業)	P.35-37

IV. 補足資料

燃油・為替情報	P.39
2014年3月期 為替変動の収支影響	P.40
国際旅客 方面別実績	P.41
国際貨物 方面別実績	P.42
運用航空機数	P.43

I. 決算・業績修正の概要、及び次期経営戦略に向けて



2014年3月期 第2四半期 決算概要

年度当初からの収支悪化要因を完全に払拭できず、増収減益決算に

《2014年3月期 第2四半期連結決算》

(単位: 億円)	第2四半期	前年差	前年比
営業収入	7,976	+444	+5.9%
航空事業	6,964	+393	+6.0%
営業利益	433	▲319	▲42.5%
航空事業	392	▲281	▲41.8%
経常利益	318	▲315	▲49.7%
当期純利益	200	▲168	▲45.7%
EBITDA	1,109	▲246	▲18.2%

《上半期輸送実績》

		1Q	2Q	上期
国内旅客	ASK	+4.6%	+4.9%	+4.8%
	RPK	+2.4%	+4.1%	+3.4%
国際旅客	ASK	+8.2%	+10.0%	+9.1%
	RPK	+2.1%	+8.0%	+5.2%
国際貨物	ATK	+8.4%	+16.6%	+12.6%
	RTK	+13.8%	+20.4%	+17.1%

《今上期収支悪化要因の第2四半期における現況》

- 円安による燃油費増加
➡
✓引き続き予算前提を超える円安基調により燃油費増加
- B787運航停止
➡
◎定期運航便への影響は解消
✓デリバリー遅延により、国際線生産量が計画割れ
(成田=ミュンヘンB787化と成田=シカゴ増便が約2ヶ月遅れ)
- 中国線旅客需要の低迷
➡
◎回復ペースが加速、9月前年比+17.0%、第2四半期+0.7%
- エアアジア・ジャパン業績
➡
✓多客期の旅客需要は堅調、収支悪化に歯止め

2014年3月期 修正業績予想

収入・費用ともに上期の実績も踏まえ、通期業績予想を下方修正

《2014年3月期 通期連結業績予想》

(単位:億円)

	当初 業績予想	修正業績予想		
		当初差	前年差	
営業収入	16,100	15,800	▲300	+964
航空事業	14,000	13,750	▲250	+822
営業利益	1,100	600	▲500	▲438
航空事業	1,050	550	▲500	▲341
営業利益率	6.8%	3.8%	▲3.0%	▲3.2%
当期純利益	450	150	▲300	▲281
EBITDA	2,495	1,945	▲550	▲332
1株あたり当期純利益	12.82円	4.29円	▲8.52円	▲9.21円
1株あたり配当	4円	3円	▲1円	▲1円

通期業績予想
修正要因

収入未達 ▲300億円

- 事業計画変更(生産量の対計画不足)
- 国内旅客:単価前提見直し、国際旅客:尖閣問題影響等
- LCC:エアアジアとの合弁解消、バニラエア就航準備

費用増加 +200億円

- 円安影響による燃油費、その他の費用増加(為替前提100円)
- コスト構造改革の進捗遅れ

次期経営戦略に向けて

経営戦略の方向性は不変。現状認識を踏まえ、取り組むべき課題を整理

	<p>ホールディングス経営</p> <p>【短期的視点】今期業績における収支悪化を受けて、収益性の回復に取り組む 【中長期的視点】成長戦略に最適な経営資源の配分・事業ポートフォリオを構築 ～各事業会社にはグループ外からの収益拡大、自律的経営を促す～</p>
<p>マルチブランド戦略</p>	<p>→フルサービス(ANA) 国内線事業:マーケットにおける優位性を確保し、収益基盤として維持強化 国際線事業:羽田国際線スロット配分を踏まえて、ネットワーク拡大・再構築</p> <p>→LCC(バニラ・Peach):新たなマーケットの創出と事業基盤の確立</p>
<p>コスト構造改革</p>	<p>→収支改善に向けた構造改革の更なる推進 →目標水準、具体的施策、達成までの時間軸を再構築したうえで、取り組みを継続</p>
<p>事業領域拡大 (戦略投資)</p>	<p>→Pan Am Holdings買収 →Asian Wings出資 →航空機整備事業展開(沖縄)</p> <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; font-size: 3em; margin: 0 10px;">}</div> <p>高い成長性、潜在需要を狙って事業展開 グループ内外にビジネスチャンスを生み出す 引き続き、更なる戦略投資案件を精査</p>

次期経営戦略に向けて

マルチブランド戦略のもと、航空事業の維持強化に向けた課題に取り組む

収益基盤としての
国内線事業

ANAの強みを維持

Full Service
(ANA国内線)

◆国内線生産量を柔軟にコントロールし、需給適合と収益性を追求

- ✓成熟したFSC国内線マーケット、需要の低成長
- ✓競争環境の変化(航空他社動向ならびに新幹線延伸)
- ⇒座席キロの伸びを抑制、各種リソースの活用による効率的運航

Full Service
(内際共通)

◆適切な運賃政策により、トップラインを底上げ

- ✓燃油費の高止まり(原油\$100-110、為替95-100円)、収益構造の変化
- ✓フルサービスキャリアとしてのプロダクト・サービスの差別化
- ⇒自助努力を超えるコスト負担も踏まえた戦略的な運賃設定

成長領域としての
国際線事業

拡大と収益向上を両立

Full Service
(ANA国際線)

◆首都圏国際線ネットワークの当面の完成型を構築

- ✓羽田増枠後の成田路線との生産量バランスを最適化
- ✓スターアライアンス、JVを効果的に活用したネットワーク構築
- ⇒羽田国際線最大のネットワークキャリアとして、
日本発着需要、グローバル流動をともにターゲットに

事業領域の拡大
LCC事業

新規マーケット創出

LCC
(バニラエア)
(Peach)

◆日本ならびに東アジアにおけるLCCマーケットの創出

- ✓バニラエア:ANAグループ主導で首都圏LCC事業の再出発
- ✓Peach:関西圏における成功をベースに事業基盤をより強化
- ⇒LCC需要の発掘、創出を通じて、航空マーケット全体の底上げ

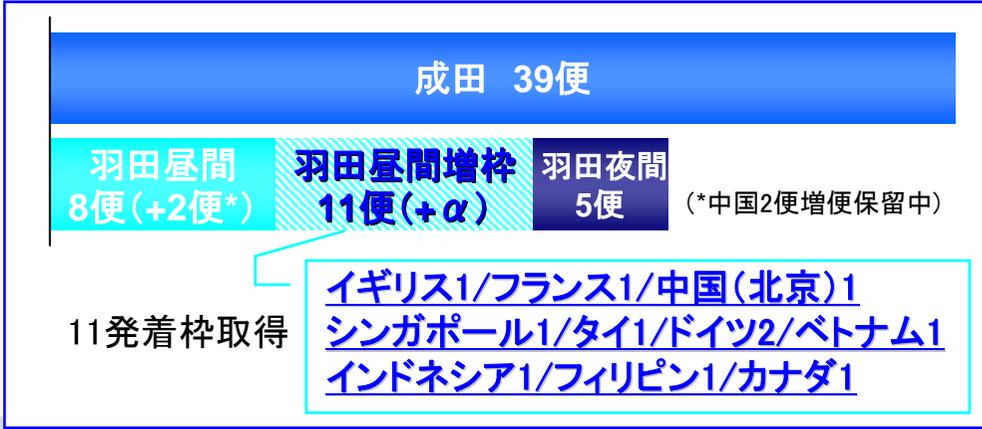
次期経営戦略に向けて

羽田増枠を活用し、首都圏発着国際線ネットワークの当面の完成型構築へ

《国際線ネットワークの最適化に向けて》

- 成田路線と羽田路線のネットワーク最適化
双方で最適な路線・ダイヤ・機材等の調整
- 国内=国際接続需要の取り込み強化
羽田国内線ネットワークの強み
国内地方都市からの渡航需要確保
- JV活用によるグローバル流動を確保
成田の国際線接続機能の有効活用

《成田・羽田発着国際線便数》



(注) 便数は1日あたり(2013年10月時点)、羽田昼間増枠は2014年夏ダイヤより



【羽田発着】

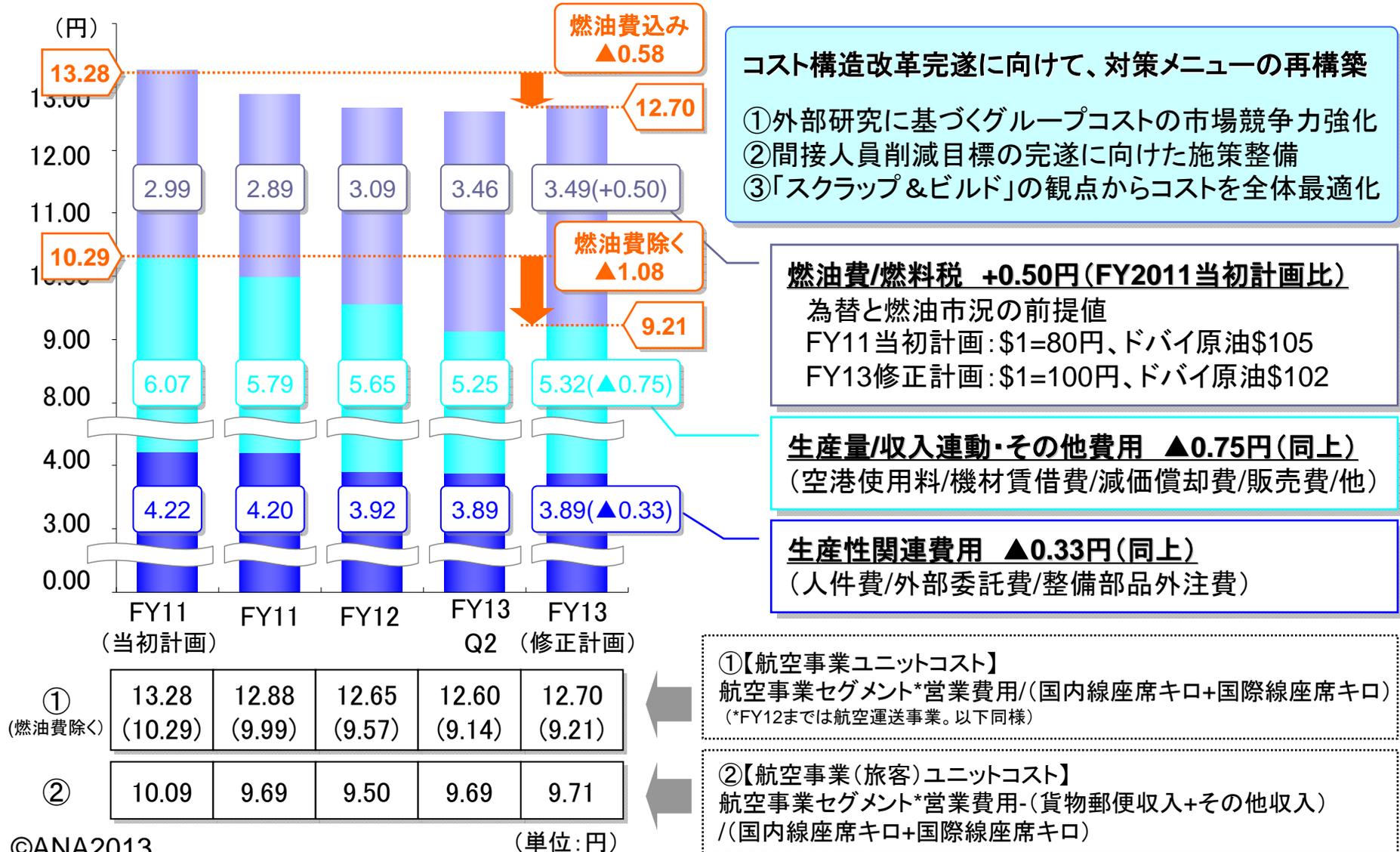
羽田最大の国際線路便設定
国内地方都市接続
首都圏プレミアム需要
アクセスの利便性

【成田発着】

アジア北米間流動
便数規模のメリット
ダイヤ設定の柔軟性

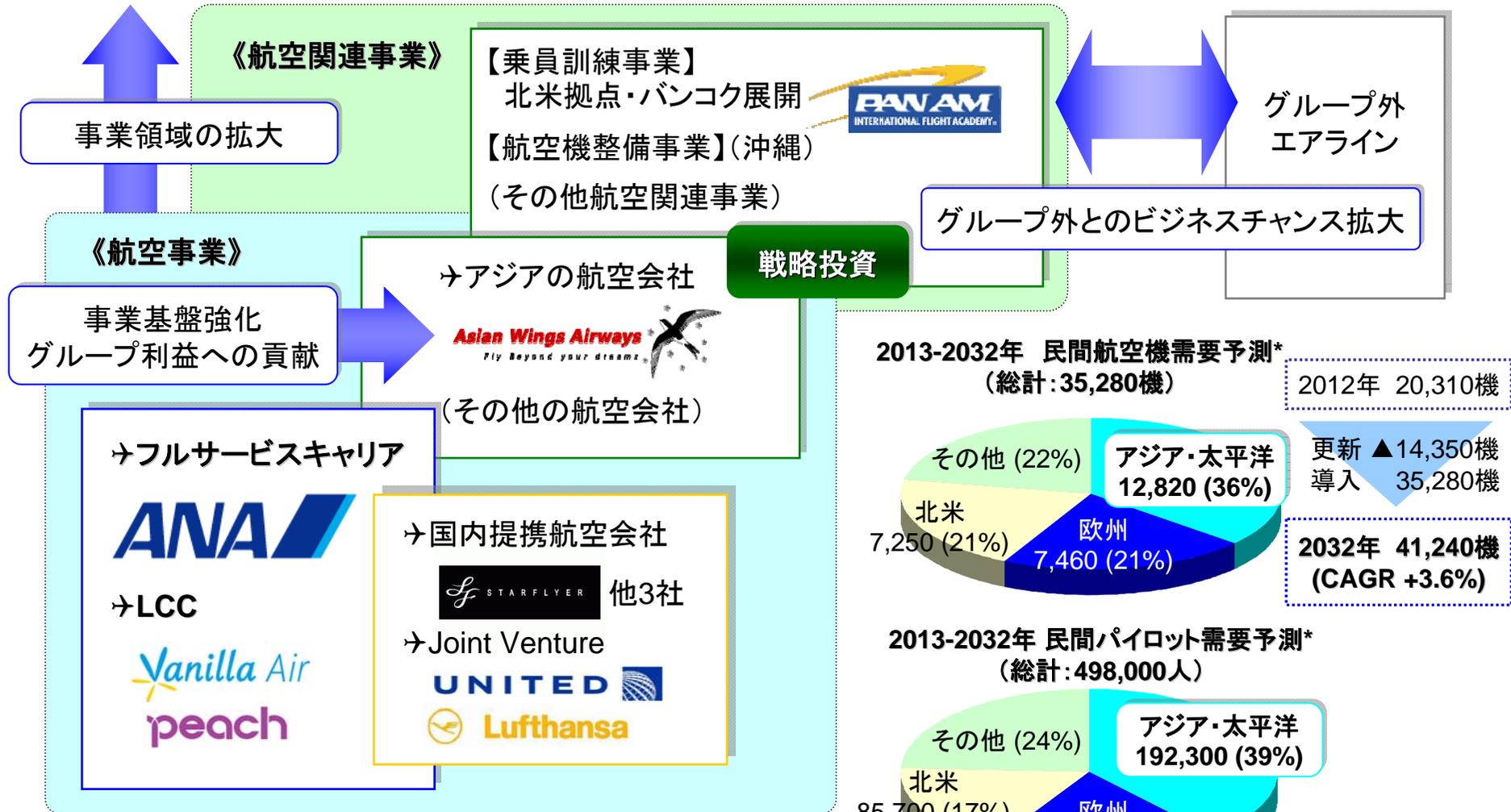
次期経営戦略に向けて

コスト構造改革(ユニットコスト削減)の成果を確認し、完遂への取り組みを継続

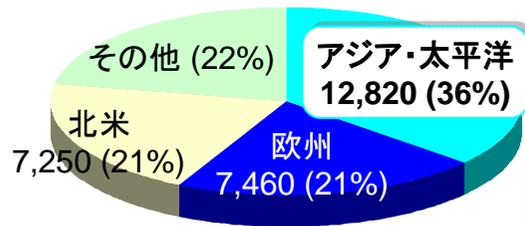


次期経営戦略に向けて

戦略投資を通じてグループの事業基盤の強化、事業領域の拡大につなげる



2013-2032年 民間航空機需要予測*
(総計:35,280機)

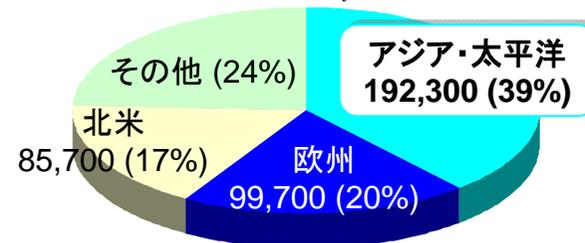


2012年 20,310機

更新 ▲14,350機
導入 35,280機

2032年 41,240機
(CAGR +3.6%)

2013-2032年 民間パイロット需要予測*
(総計:498,000人)



*Boeing Annual Current Market Outlook (June 11, 2013)

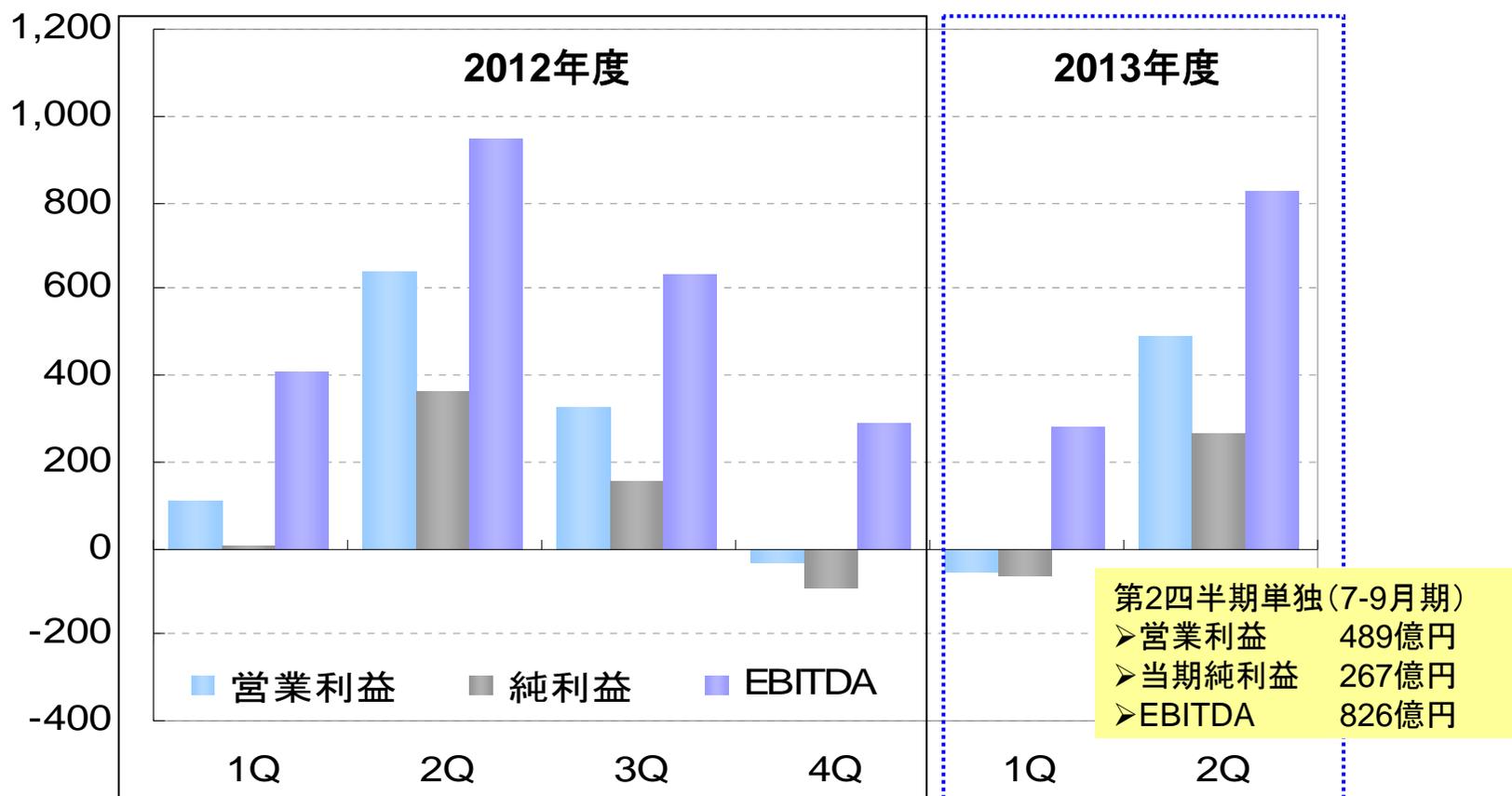
Ⅱ. 2014年3月期 第2四半期決算《詳細》



業績ハイライト

当第2四半期と前年度各四半期の業績比較

- 第2四半期累計での連結営業利益は、433億円(前年同期比で △319億円)。
- 当期純利益は、200億円(同 △168億円)、EBITDAは、1,109億円(同 △246億円)。



連結決算概要

経営成績

	前年同期 1H/FY12	第2四半期累計 1H/FY13	前年差 Difference	第2四半期 2Q/FY13	前年差 Difference
営業収入 Operating Revenues	7,532	7,976	+ 444	4,392	+ 292
営業費用 Operating Expenses	6,779	7,543	+ 764	3,903	+ 445
営業利益 Operating Income	753	433	△ 319	489	△ 152
営業利益率 Op. Margin (%)	10.0	5.4	△ 4.6	11.1	△ 4.5
営業外損益 Non-Op. Gains/Losses	△ 118	△ 114	+ 4	△ 57	△ 2
経常利益 Recurring Income	634	318	△ 315	431	△ 155
特別損益 Extraordinary Gains/Losses	△ 2	14	+ 17	△ 4	△ 3
当期純利益 Net Income	369	200	△ 168	267	△ 95
少数株主損益調整前当期純利益 Net Income Before Minority Interests	366	188	△ 177	268	△ 91
その他包括利益 Other Comprehensive Income	△ 149	△ 0	+ 148	6	△ 35
包括利益 Comprehensive Income	217	188	△ 28	275	△ 127

単位: 億円 (¥100Million)

連結決算概要

財政状態

	前期末 Mar 31, 2013	第2四半期末 Sep 30, 2013	前年度期末差 Difference
総資産 Assets	21,372	21,305	△ 67
自己資本 Shareholders' Equity	7,667	7,676	+ 8
自己資本比率 Ratio of Shareholders' Equity (%)	35.9	36.0	+ 0.2
有利子負債残高 Interest Bearing Debts	8,971	8,549	△ 421
D/Eレシオ(倍)* Debt/Equity Ratio (times)	1.2	1.1	△ 0.1
純有利子負債残高** Net Interest Bearing Debts	4,775	4,685	△ 90

単位:億円 (¥100Million)

* オフバランスリース債務額1,292億円(前年度末1,368億円)を含むD/Eレシオは1.3倍(前年度末1.3倍)となります。

** 純有利子負債残高:有利子負債残高-(流動資産(現金及び預金+有価証券))

連結決算概要

キャッシュフロー	前年同期 1H/FY12	第2四半期 1H/FY13	前年差 Difference
営業キャッシュフロー Cash Flow from Operating Activities	1,237	1,337	+ 100
投資キャッシュフロー Cash Flow from Investing Activities	△ 3,260	△453	+ 2,806
財務キャッシュフロー Cash Flow from Financing Activities	1,296	△627	△ 1,923
現金及び現金同等物の増減額 Net Increase or Decrease	△ 727	258	+ 985
現金及び現金同等物の期首残高 Cash and Cash Equivalent at the beginning	2,658	1,912	} + 258**
現金及び現金同等物の期末残高 Cash and Cash Equivalent at the end	1,941	2,171	
減価償却費 Depreciation and Amortization	603	676	+ 72
設備投資額(固定資産のみ) Capital Expenditures	681	1,052	+ 370
実質フリーキャッシュフロー (3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く) Substantial Free Cash Flow (excluding periodic/negotiable deposits of more than 3 months)	798	294	△ 503
EBITDA *	1,356	1,109	△ 246
EBITDAマージン EBITDA Margin(%)	18.0	13.9	△ 4.1

単位: 億円 (¥100Million)

連結決算概要

セグメント別実績		前年同期 1H/FY12	第2四半期累計 1H/FY13	前年差 Difference	第2四半期 2Q/FY13	前年差 Difference
売上高 Revenues	航空事業 Air Transportation	6,571	6,964	+ 393	3,841	+ 262
	航空関連事業 Airline Related	874	930	+ 56	473	+ 20
	旅行事業 Travel Services	843	907	+ 63	543	+ 47
	商社事業 Trade and Retail	492	538	+ 45	273	+ 27
	報告セグメント計 Total for Reporting Segments	8,781	9,341	+ 559	5,132	+ 359
	その他 Others	139	142	+ 3	72	+ 2
	調整額 Adjustment	△ 1,389	△ 1,507	△ 118	△ 811	△ 68
	合計(連結) Total	7,532	7,976	+ 444	4,392	+ 292
営業利益 Operating Income	航空事業 Air Transportation	673	392	△ 281	457	△ 124
	航空関連事業 Airline Related	30	37	+ 6	25	△ 2
	旅行事業 Travel Services	30	27	△ 2	21	+ 0
	商社事業 Trade and Retail	14	18	+ 3	11	+ 3
	報告セグメント計 Total for Reporting Segments	748	476	△ 272	515	△ 124
	その他 Others	4	4	△ 0	3	+ 0
	調整額 Adjustment	△ 0	△ 47	△ 46	△ 29	△ 29
	合計(連結) Total	753	433	△ 319	489	△ 152

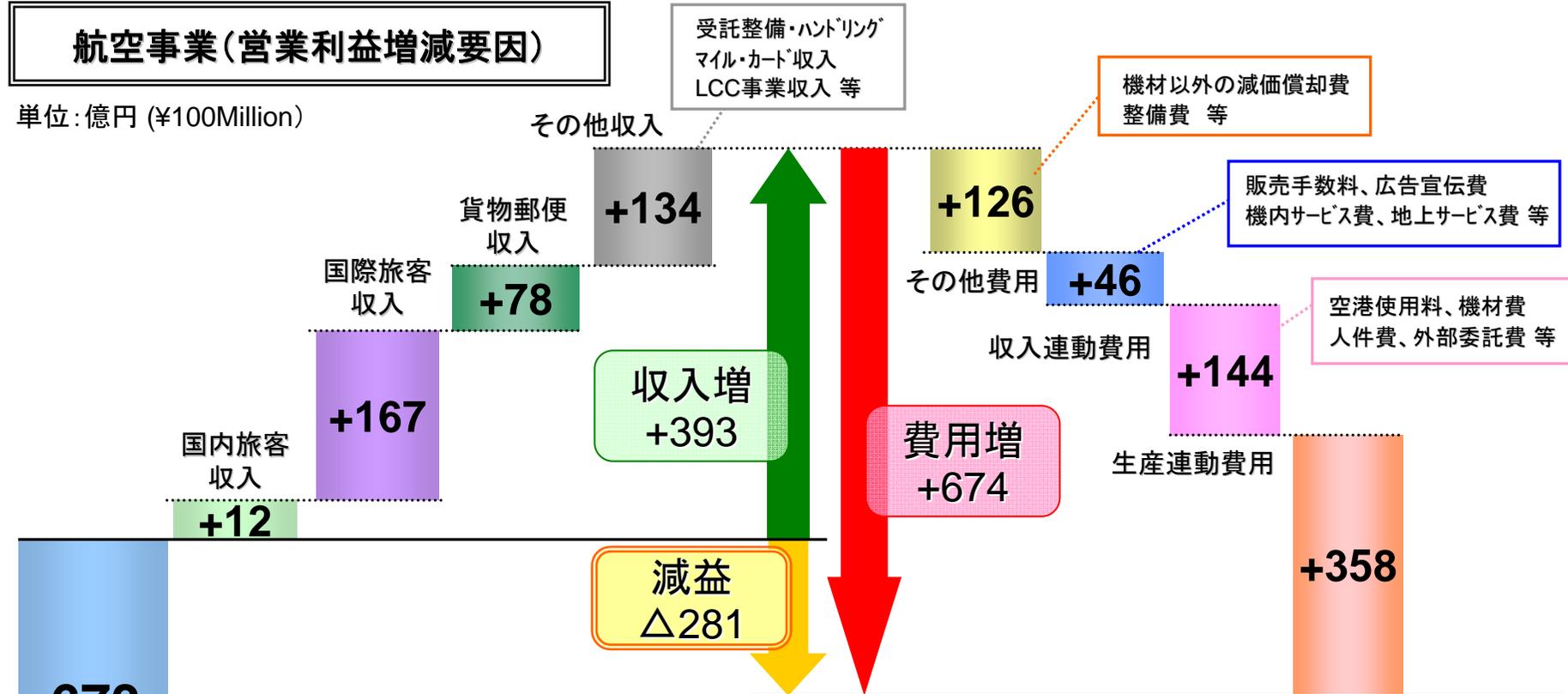
航空事業

収入・費用		前年同期 1H/FY12	第2四半期累計 1H/FY13	前年差 Difference	第2四半期 2Q/FY13	前年差 Difference
営業収入 Operating Revenues	国内線旅客 Domestic Passengers	3,430	3,443	+ 12	1,969	+ 31
	国際線旅客 International Passengers	1,797	1,965	+ 167	1,070	+ 104
	貨物郵便 Cargo and Mail	607	685	+ 78	348	+ 49
	その他 Others	735	869	+ 134	452	+ 77
	合計 Total	6,571	6,964	+ 393	3,841	+ 262
営業費用 Operating Expenses	燃油費及び、燃料税 Fuel and Fuel Tax	1,445	1,803	+ 358	935	+ 200
	空港使用料 Landing and Navigation Fees	511	546	+ 34	284	+ 20
	航空機材賃借費 Aircraft Leasing Fees	351	388	+ 36	202	+ 25
	減価償却費 Depreciation and Amortization	584	636	+ 51	327	+ 31
	整備部品・外注費 Aircraft Maintenance	339	415	+ 75	216	+ 44
	人件費 Personnel	864	833	△ 31	410	△ 38
	販売費 Sales Commission and Promotion	352	376	+ 23	202	+ 26
	外部委託費 Contracts	681	780	+ 98	395	+ 52
	その他 Others	765	790	+ 24	409	+ 25
	合計 Total	5,898	6,572	+ 674	3,383	+ 387
営業利益	営業利益 Operating Income	673	392	△ 281	457	△ 124
	EBITDA*	1,256	1,048	△ 207	784	△ 91
	EBITDAマージン EBITDA Margin (%)	19.1	15.1	△ 4.1	20.4	△ 4.1

航空事業

航空事業(営業利益増減要因)

単位: 億円 (¥100Million)



FY12 1H
営業利益

コスト構造改革 進捗状況	年度計画	上期実績
生産性向上	105	40
投資適正化	10	5
営業改革	25	10
業務改革等	110	45
計	250	100

燃油費・燃料税
392

FY13 1H
営業利益

航空事業

国内旅客事業(実績)

	前年同期 1H/FY12	第2四半期累計 1H/FY13	前年比 % Y/Y	第2四半期 2Q/FY13	前年比 % Y/Y
座席キロ(百万) Available Seat Km (million)	29,727	31,141	+ 4.8	16,231	+ 4.9
旅客キロ(百万) Revenue Passenger Km (million)	18,336	18,950	+ 3.4	10,454	+ 4.1
旅客数(千人) Passengers (thousands)	20,773	21,370	+ 2.9	11,679	+ 3.6
座席利用率(%) Load Factor (%)	61.7	60.9	△ 0.8*	64.4	△ 0.5*
旅客収入(億円) Passenger Revenues (¥100million)	3,430	3,443	+0.4	1,969	+ 1.6
ユニットレベニュー(円) Unit Revenue (¥/ASK)	11.5	11.1	△4.2	12.1	△ 3.1
イールド(円) Yield (¥/RPK)	18.7	18.2	△ 2.9	18.8	△ 2.4
単価(円) Unit Price (¥/Passenger)	16,515	16,115	△ 2.4	16,866	△ 1.9

*座席利用率のみ前年差

※ AirAsia Japanは上記データには含まれませんが、当第2四半期(累計)における輸送実績は、座席キロは553百万席キロ(前年比 +293.9%)、旅客キロは367百万人キロ(前年比 +241.7%)、旅客数は344千人(前年比 +256.8%)、利用率は66.5% (前年差 △10.2%) となりました。

航空事業

国内旅客事業(事業動向)

(AirAsia Japan含まず)

第2四半期 収入増減要因

✓ 株主優待・客体構成変化等 単価のマイナス要因を、事業規模拡大・需要喚起策等による旅客数要因が上回り増収

《主な旅客数要因》

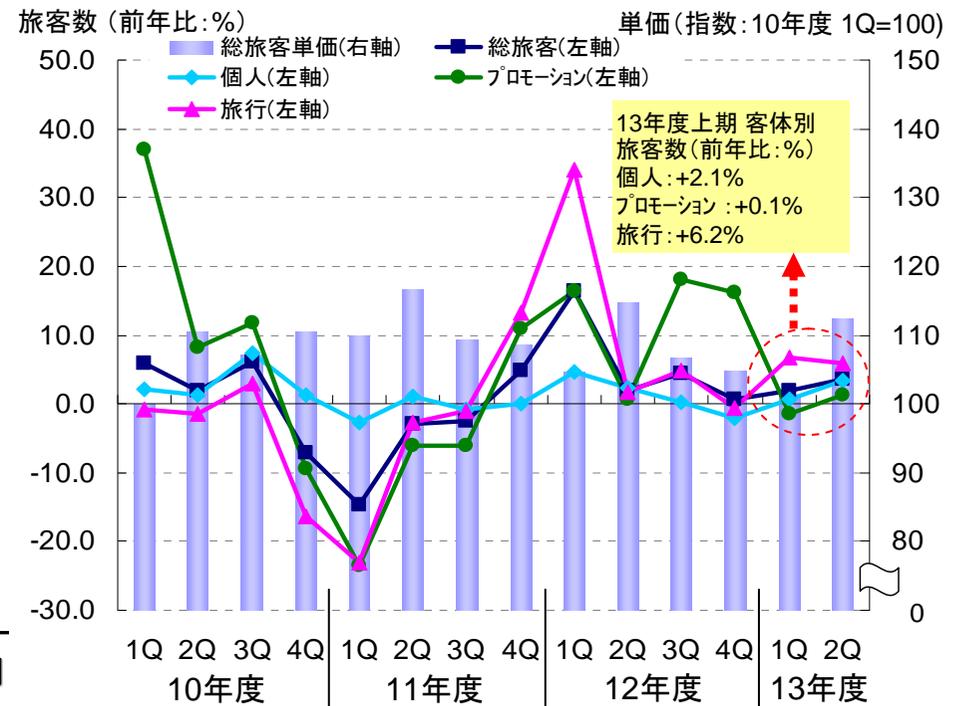
羽田増枠 +70(+40)、生産量増 +20(+10)
 他社生産量増 $\Delta 35(\Delta 10)$
 株主優待運賃関連 +30(+15)
 B787運航停止 $\Delta 25(0)$
 需要喚起策等 +35(+10)

単位: 億円(¥100Million)



四半期別 客体別旅客数・単価推移

✓ 堅調な旅行客体に加え、個人・プロモーション客体の旅客数が改善し、上期では全客体の旅客数が前年比プラスへ



当四半期 トピックス:

→ 2013年度下期 ANAグループ航空輸送事業計画を一部変更 (8月21日付 リリース)

航空事業

国際旅客事業(実績)

	前年同期 1H/FY12	第2四半期累計 1H/FY13	前年比 % Y/Y	第2四半期 2Q/FY13	前年比 % Y/Y
座席キロ(百万) Available Seat Km (million)	18,490	20,178	+ 9.1	10,372	+ 10.0
旅客キロ(百万) Revenue Passenger Km (million)	14,341	15,089	+ 5.2	8,125	+ 8.0
旅客数(千人) Passengers (thousands)	3,311	3,170	△ 4.3	1,734	+ 0.9
座席利用率(%) Load Factor (%)	77.6	74.8	△ 2.8*	78.3	△ 1.4*
旅客収入(億円) Passenger Revenues (¥100million)	1,797	1,965	+ 9.3	1,070	+ 10.8
ユニットレベニュー(円) Unit Revenue (¥/ASK)	9.7	9.7	+ 0.2	10.3	+ 0.8
イールド(円) Yield (¥/RPK)	12.5	13.0	+ 3.9	13.2	+ 2.6
単価(円) Unit Price (¥/Passenger)	54,289	61,998	+ 14.2	61,719	+ 9.9

*座席利用率のみ前年差

※ AirAsia Japanは上記データには含まれませんが、当第2四半期(累計)における輸送実績は、座席キロは284百万席キロ、旅客キロは187百万人キロ、旅客数は140千人、利用率は65.7%となりました。

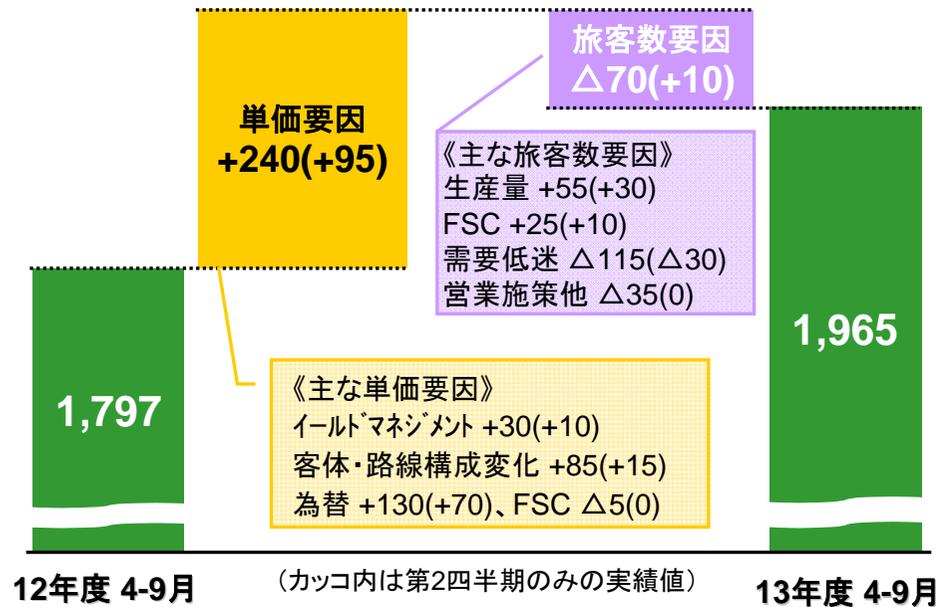
航空事業

国際旅客事業(事業動向)

(AirAsia Japan含まず)

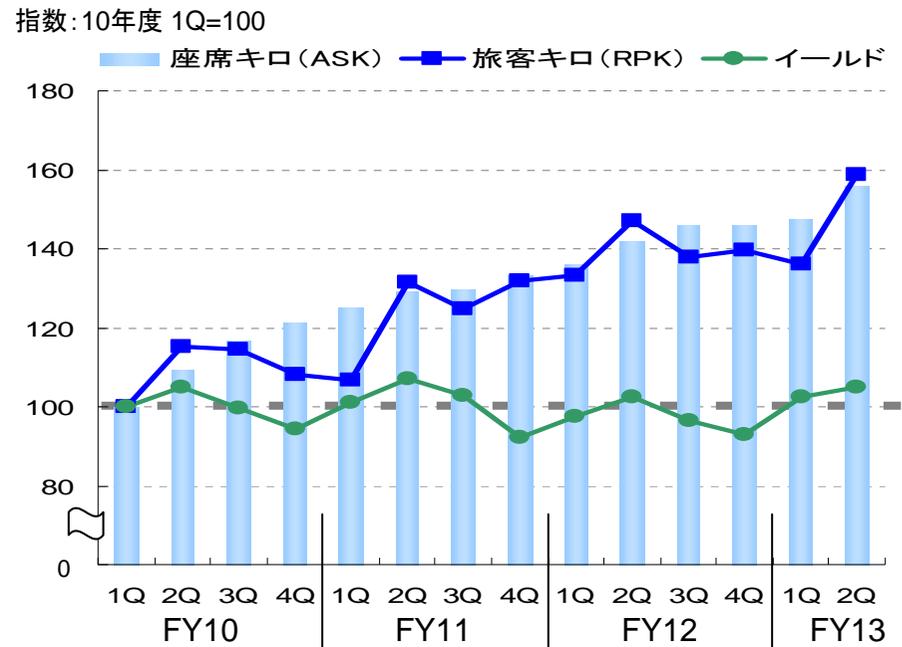
第2四半期 収入増減要因

✓旅客数要因は、主に中国路線の影響を受けマイナスとなるも、客体・路線構成変化、為替等の単価要因により、全体で増収
 単位: 億円(¥100Million)



四半期別 座席キロ・旅客キロ・イールド推移

✓第2四半期 中国線の需要回復・アジア線の需要拡大等により、旅客キロが座席キロ並みに増加



当四半期 トピックス:

- 8月1日～ 燃油特別付加運賃改定 (例)日本＝欧米(ハワイ除く)・中東路線等 23,500円→21,000円 (6月13日付 リリース)
- 2013年サマーダイヤ国際線路便計画の一部変更について (7月4日・7月24日付 リリース)

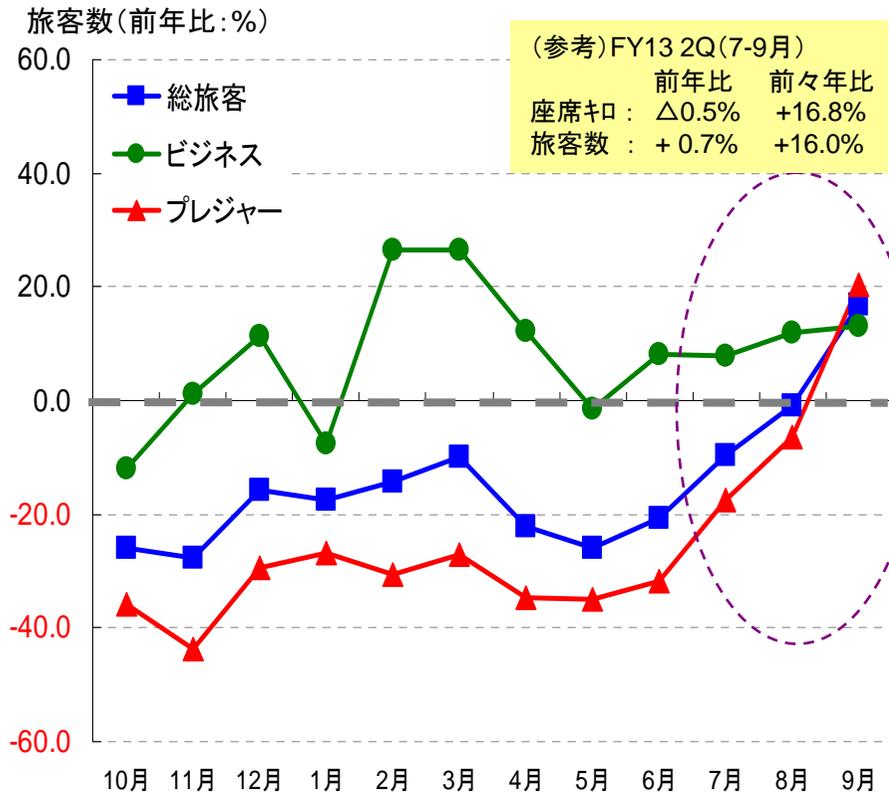
航空事業

国際旅客事業(事業動向)

(AirAsia Japan含まず)

中国線 旅客数推移

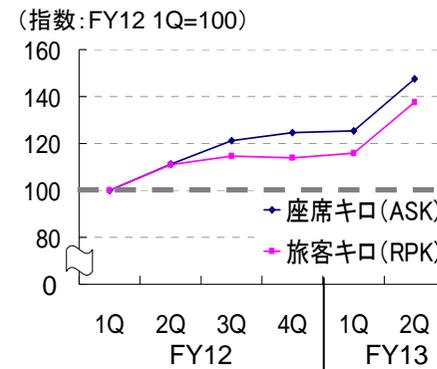
✓ 堅調なビジネス需要に加え、中国発プレジャー需要の回復・拡大により前年を上回る



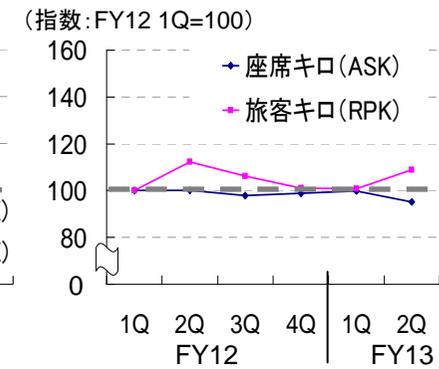
四半期別 国際線方面別 輸送実績推移

✓ 中国以外の各方面も、旅客キロが概ね堅調に推移

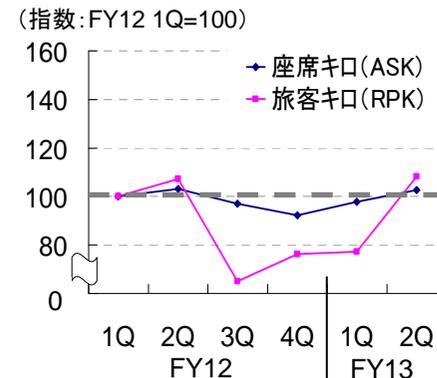
【北米】



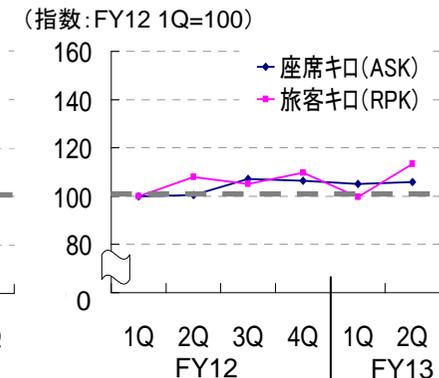
【欧州】



【中国】



【アジア】



航空事業

国内貨物事業(実績)		前年同期 1H/FY12	第2四半期累計 1H/FY13	前年比 % Y/Y	第2四半期 2Q/FY13	前年比 % Y/Y
国内貨物 Domestic Cargo	有効貨物トンキロ (百万トンキロ) Available Ton Km (million)	975	1,006	+ 3.2	534	+ 4.7
	有償貨物トンキロ (百万トンキロ) Revenue Ton Km (million)	224	220	△ 1.7	119	+ 1.5
	貨物輸送重量 (千トン) Revenue Ton (thousand tons)	226	223	△ 1.3	121	+ 1.9
	貨物重量利用率 (%) Load Factor (%)	23.0	22.0	△ 1.1*	22.4	△ 0.7*
	貨物収入 (億円) Cargo Revenues (¥100million)	158	152	△ 3.6	81	△ 1.2
	ユニットレベニュー (円) Unit Revenue (¥/ATK)	16.3	15.2	△ 6.6	15.2	△ 5.7
	重量あたり単価 (円/kg) Unit Price (¥/kg)	70	68	△ 2.4	67	△ 3.1
【参考: 上記内数】 国内フレイター Domestic Freighter	有効貨物トンキロ (百万トンキロ) Available Ton Km (million)	14	14	+ 1.4	7	△ 3.9
	有償貨物トンキロ (百万トンキロ) Revenue Ton Km (million)	4	4	△ 1.4	2	△ 7.5
	貨物輸送重量 (千トン) Revenue Ton (thousand tons)	4	4	+ 6.6	2	+ 1.5
	貨物重量利用率 (%) Load Factor (%)	33.0	32.1	△ 0.9*	33.1	△ 1.3*
	貨物収入 (億円) Cargo Revenues (¥100million)	6	6	+ 2.0	3	+ 0.7
	ユニットレベニュー (円) Unit Revenue (¥/ATK)	43.0	43.2	+ 0.6	44.2	+ 4.7
	重量あたり単価 (円/kg) Unit Price (¥/kg)	135	129	△ 4.4	129	△ 0.8

航空事業

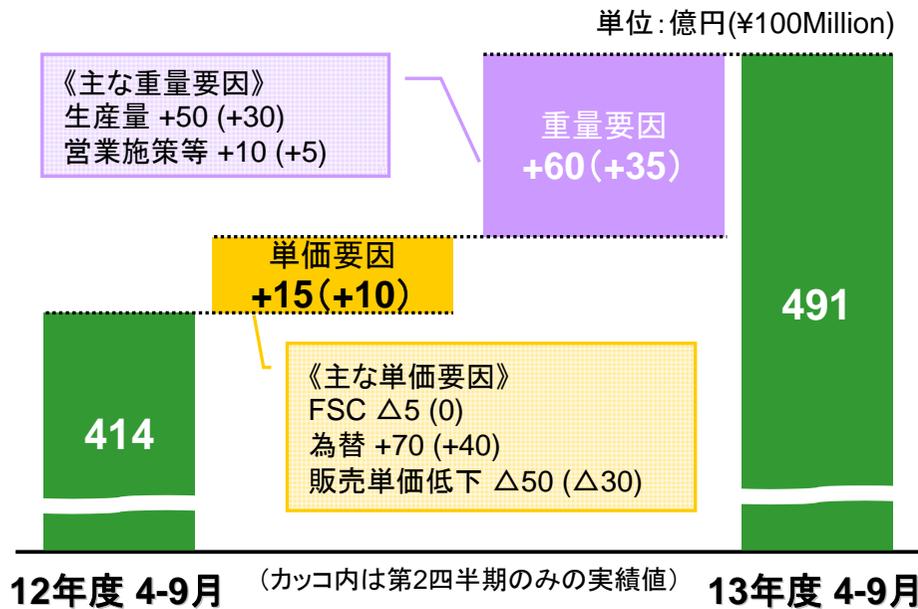
国際貨物事業(実績)		前年同期 1H/FY12	第2四半期累計 1H/FY13	前年比 % Y/Y	第2四半期 2Q/FY13	前年比 % Y/Y
国際貨物 International Cargo	有効貨物トンキロ (百万トンキロ) Available Ton Km (million)	1,927	2,169	+ 12.6	1,144	+ 16.6
	有償貨物トンキロ (百万トンキロ) Revenue Ton Km (million)	1,167	1,366	+ 17.1	699	+ 20.4
	貨物輸送重量 (千トン) Revenue Ton (thousand tons)	293	334	+ 13.8	171	+ 16.4
	貨物重量利用率 (%) Load Factor (%)	60.6	63.0	+ 2.4*	61.2	+ 2.0*
	貨物収入 (億円) Cargo Revenues (¥100million)	414	491	+ 18.6	245	+ 23.6
	ユニットレベニュー (円) Unit Revenue (¥/ATK)	21.5	22.6	+ 5.3	21.5	+ 6.0
	重量あたり単価 (円/kg) Unit Price (¥/kg)	141	147	+ 4.2	143	+ 6.2
【参考: 上記内数】 国際フレイター International Freighter	有効貨物トンキロ (百万トンキロ) Available Ton Km (million)	412	462	+ 12.1	246	+ 20.7
	有償貨物トンキロ (百万トンキロ) Revenue Ton Km (million)	238	281	+ 18.0	149	+ 25.7
	貨物輸送重量 (千トン) Revenue Ton (thousand tons)	137	153	+ 12.3	79	+ 15.6
	貨物重量利用率 (%) Load Factor (%)	57.8	60.8	+ 3.1*	60.5	+ 2.4*
	貨物収入 (億円) Cargo Revenues (¥100million)	156	185	+ 18.3	94	+ 24.1
	ユニットレベニュー (円) Unit Revenue (¥/ATK)	37.9	40.0	+ 5.6	38.2	+ 2.9
	重量あたり単価 (円/kg) Unit Price (¥/kg)	114	120	+ 5.4	118	+ 7.4

航空事業

国際貨物事業(事業動向)

第2四半期 収入増減要因

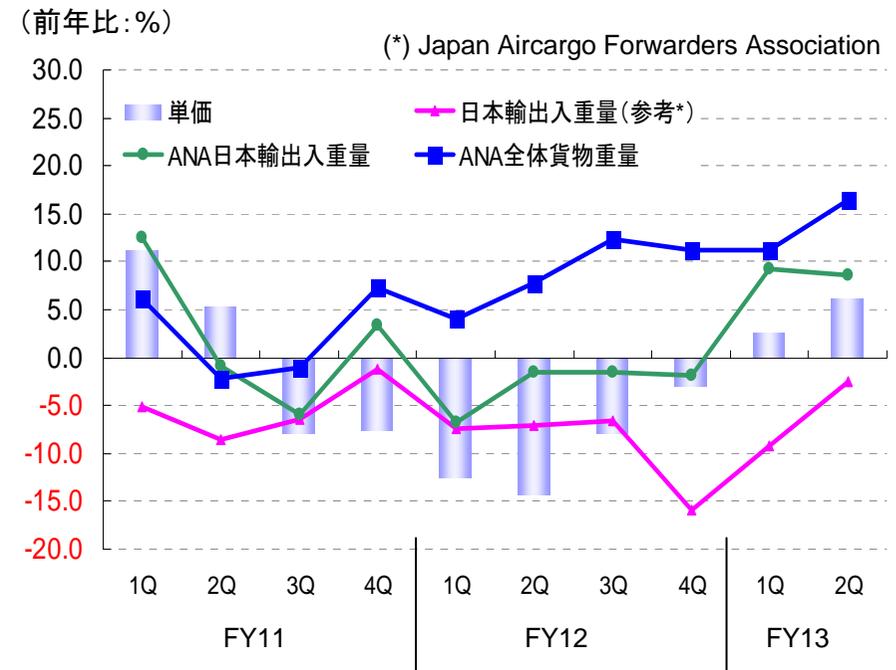
- ✓第1四半期に続き、円安による単価改善、生産量の拡大等による重量増により増収



※貨物のみ。郵便含まず。

四半期別 輸送実績・単価推移

- ✓日本輸出入重量が前年割れで推移する中、当社国際線貨物重量は前年を2桁以上上回って拡大



当四半期 トピックス:

→貨物便ネットワークの更なる充実 (5月17日付 リリース)

→9月1日～ 燃油特別付加運賃改定 欧米・中東路線 120円→127円、遠距離アジア 88円→91円、近距離アジア 75円→77円 (8月16日付 リリース)

航空事業以外のセグメント

セグメント別実績	航空関連事業			旅行事業		
	前年同期 1H/FY12	第2四半期累計 1H/FY13	前年差 Difference	前年同期 1H/FY12	第2四半期累計 1H/FY13	前年差 Difference
売上高 Revenues	874	930	+ 56	843	907	+ 63
営業利益 Op. Income	30	37	+ 6	30	27	△ 2
減価償却費 Depreciation and Amortization	14	15	+ 0	0	0	△ 0
EBITDA*	45	52	+ 6	30	28	△ 2
EBITDAマージン EBITDA Margin (%)	5.2	5.6	+ 0.4	3.6	3.1	△ 0.5

	商社事業			その他		
	前年同期 1H/FY12	第2四半期累計 1H/FY13	前年差 Difference	前年同期 1H/FY12	第2四半期累計 1H/FY13	前年差 Difference
売上高 Revenues	492	538	+ 45	139	142	+ 3
営業利益 Op. Income	14	18	+ 3	4	4	△ 0
減価償却費 Depreciation and Amortization	3	3	△ 0	1	1	△ 0
EBITDA*	18	22	+ 3	6	5	△ 0
EBITDAマージン EBITDA Margin (%)	3.8	4.1	+ 0.4	4.4	3.8	△ 0.6

* EBITDA : 営業利益 + 減価償却費

単位: 億円 (¥100Million)

Intentionally Blank

Ⅲ. 2014年3月期 通期業績予想《詳細》



Intentionally Blank

2014年3月期 通期業績予想

連結業績予想

	2012年度 FY12	2013年度 FY13(RE)	前年差 Difference	2013年度 当初予想* FY13(E)
営業収入 Operating Revenues	14,835	15,800	+ 964	16,100
営業費用 Operating Expenses	13,797	15,200	+ 1,402	15,000
営業利益 Operating Income	1,038	600	△ 438	1,100
営業利益率(%) Op. Margin (%)	7.0	3.8	△ 3.2	6.8
経常利益 Recurring Income	769	300	△ 469	800
当期純利益 Net Income	431	150	△ 281	450

*《参考》2013年4月30日リリース分

単位:億円 (¥100Million)

2014年3月期 通期業績予想

セグメント別業績予想		2012年度 FY12	2013年度 FY13 (RE)	前年差 Difference	2013年度 当初予想* FY13(E)
売上高 Revenues	航空事業 Air Transportation	12,927	13,750	+ 822	14,000
	航空関連事業 Airline Related	1,781	1,950	+ 168	2,000
	旅行事業 Travel Services	1,610	1,700	+ 89	1,700
	商社事業 Trade and Retail	977	1,030	+ 52	1,030
	報告セグメント計 Total for Reporting Segments	17,296	18,430	+ 1,133	18,730
	その他 Others	288	300	11	300
	調整額 Adjustment	△ 2,749	△ 2,930	△ 180	△ 2,930
	合計(連結) Total	14,835	15,800	+ 964	16,100
営業利益 Operating Income	航空事業 Air Transportation	891	550	△ 341	1,050
	航空関連事業 Airline Related	63	50	△ 13	50
	旅行事業 Travel Services	44	50	+ 5	50
	商社事業 Trade and Retail	28	30	+ 1	30
	報告セグメント計 Total for Reporting Segments	1,028	680	△ 348	1,180
	その他 Others	11	10	△ 1	10
	調整額 Adjustment	△ 1	△ 90	△ 88	△ 90
	合計(連結) Total	1,038	600	△ 438	1,100

2014年3月期 通期業績予想

航空事業(収入・費用予想)

		2012年度 FY12	2013年度 FY13 (RE)	前年差 Difference	2013年度 当初予想* FY13(E)
営業収入 Operating Revenues	国内線旅客 Domestic Passengers	6,659	6,810	+150	6,885
	国際線旅客 International Passengers	3,483	3,775	+ 291	3,975
	貨物郵便 Cargo and Mail	1,262	1,470	+ 207	1,495
	その他 Others	1,521	1,695	+ 173	1,645
	合計 Total	12,927	13,750	+ 822	14,000
営業費用 Operating Expenses	燃油費及び、燃料税 Fuel and Fuel Tax	2,998	3,625	+ 626	3,465
	燃油費以外 Non – Fuel Cost	9,037	9,575	+ 537	9,485
	合計 Total	12,036	13,200	+ 1,163	12,950
営業利益	営業利益 Operating Income	891	550	△ 341	1,050

* 《参考》2013年7月30日リリース分(開示セグメント変更後)

** AirAsia Japanは、その他に含む

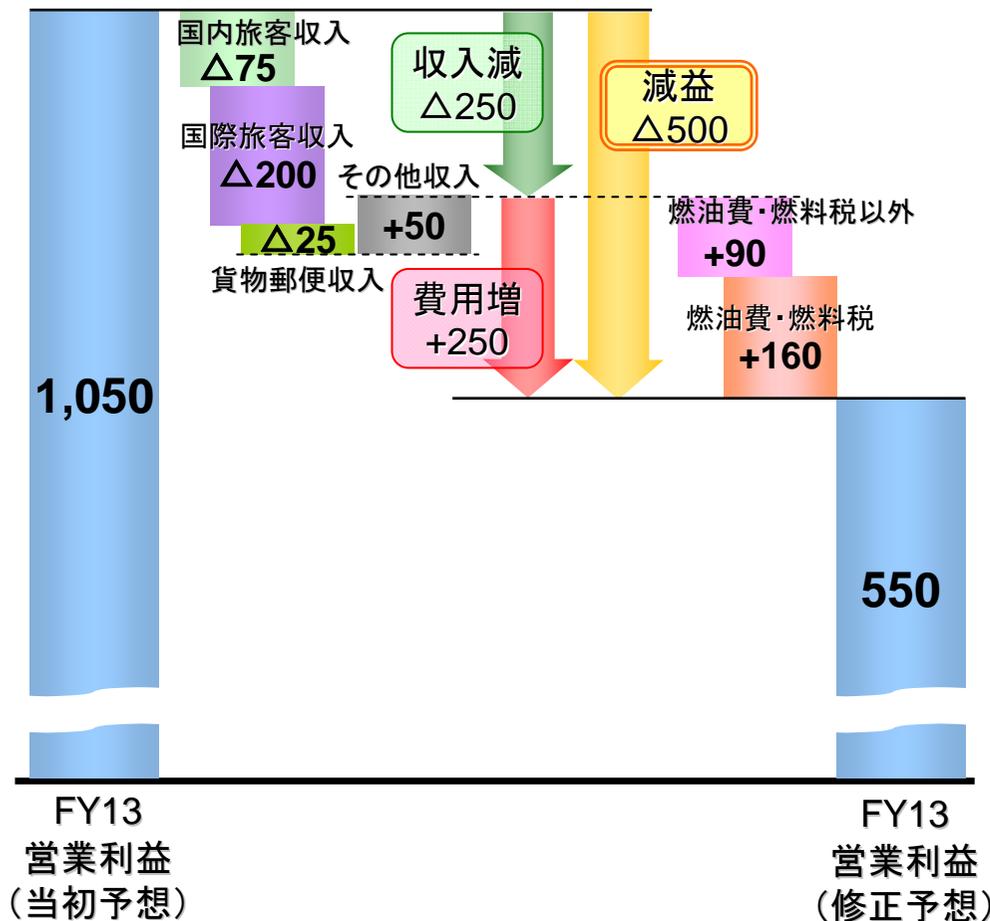
単位: 億円 (¥100Million)

2014年3月期 通期業績予想

航空事業(営業利益修正要因)

単位: 億円 (¥100Million)

1. 収入・費用の増減差異



2. 業績予想修正の主な要因

為替	円安による外貨建て収入・費用増加での収支の悪化
LCC	<ul style="list-style-type: none"> 機材導入遅れによる機材計画の見直し エアアジアとのJV解消による事業計画の見直し
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> B787デリバリー遅延によるダイヤ計画見直し 羽田中国線の就航延期、仁川線運休等
収入計画見直し	<ul style="list-style-type: none"> 国内旅客: 単価水準の下落幅拡大 国際旅客: 中国線需要の回復遅れ
コスト構造改革	下期での実施予定項目の一部未達成
費用計画見直し	上期実績及び下期計画の精査による(為替要因除く)営業費の増加

2014年3月期 通期業績予想

《旅客事業》業績予想の前提値(対2012年度比較)

全体 Total	国内旅客 Domestic Passengers			国際旅客 International Passengers		
	上期 1H(A)	下期 2H(RE)	2013年度 FY13(RE)	上期 1H(A)	下期 2H(RE)	2013年度 FY13(RE)
座席キロ Available Seat Km	+ 6.1	+ 3.4	+ 4.8	+ 10.7	+ 10.2	+ 10.4
旅客キロ Revenue Passenger Km	+ 4.7	+ 4.8	+ 4.8	+ 6.5	+ 9.5	+ 8.0
旅客数 Passengers	+ 4.0	+ 4.3	+ 4.2	△ 0.0	+ 7.6	+ 3.6
座席利用率 (%) * Load Factor (%)	61.0 (△ 0.8)	63.4 (+ 0.9)	62.1 (+ 0.0)	74.7 (△ 2.9)	72.5 (△ 0.5)	73.5 (△ 1.7)
ユニットレベニュー(円) ** Unit Revenue (¥/ASK)	10.9 (△ 5.0)	11.2 (+ 0.8)	11.1 (△ 2.2)	9.7 (△ 0.6)	8.4 (△ 2.3)	9.0 (△ 1.4)
旅客イールド(円) ** Yield (¥/RPK)	18.0 (△ 3.7)	17.6 (△ 0.6)	17.8 (△ 2.2)	12.9 (+ 3.3)	11.6 (△ 1.7)	12.3 (+ 0.8)
単価(円) ** Unit Price (¥/Passenger)	15,974 (△ 3.1)	15,769 (△ 0.1)	15,872 (△ 1.6)	59,736 (+ 10.0)	55,886 (+ 0.1)	57,827 (+ 5.1)

* (カッコ)内: 前年差

** (カッコ)内: 前年比

2014年3月期 通期業績予想

《旅客事業》業績予想の前提値(対2012年度比較)

【参考:全体の内数】 ANAブランドのみ (ANA Brand Only)	国内旅客 Domestic Passengers			国際旅客 International Passengers		
	上期 1H(A)	下期 2H(RE)	2013年度 FY13(RE)	上期 1H(A)	下期 2H(RE)	2013年度 FY13(RE)
座席キロ Available Seat Km	+ 4.8	+ 3.8	+ 4.3	+ 9.1	+ 9.3	+ 9.2
旅客キロ Revenue Passenger Km	+ 3.4	+ 5.2	+ 4.3	+ 5.2	+ 8.5	+ 6.9
旅客数 Passengers	+ 2.9	+ 4.7	+ 3.8	△ 4.3	+ 6.4	+ 0.8
座席利用率 (%) * Load Factor (%)	60.9 (△ 0.8)	63.4 (+ 0.9)	62.1 (△ 0.0)	74.8 (△ 2.8)	72.5 (△ 0.5)	73.6 (△ 1.6)
ユニットレベニュー(円) ** Unit Revenue (¥/ASK)	11.1 (△ 4.2)	11.3 (+ 0.5)	11.2 (△ 1.9)	9.7 (+ 0.2)	8.5 (△ 1.8)	9.1 (△ 0.8)
旅客イールド(円) ** Yield (¥/RPK)	18.2 (△ 2.9)	17.8 (△ 0.9)	18.0 (△ 1.9)	13.0 (+ 3.9)	11.7 (△ 1.1)	12.4 (+ 1.4)
単価(円) ** Unit Price (¥/Passenger)	16,115 (△ 2.4)	15,830 (△ 0.4)	15,972 (△ 1.5)	61,998 (+ 14.2)	57,303 (+ 0.8)	59,655 (+ 7.5)

* (カッコ)内:前年差

** (カッコ)内:前年比

2014年3月期 通期業績予想

《貨物事業》 業績予想の前提値(対2012年度比較)

		国内貨物 Domestic Cargo			国際貨物 International Cargo		
		上期 1H(A)	下期 2H(RE)	2013年度 FY13(RE)	上期 1H(A)	下期 2H(RE)	2013年度 FY13(RE)
全体 Total	有効貨物トンキロ Available Ton km	+ 3.2	+ 4.4	+ 3.8	+ 12.6	+ 16.7	+ 14.7
	有償貨物トンキロ Revenue Ton km	△ 1.7	+ 2.1	+ 0.3	+ 17.1	+ 17.3	+ 17.2
	貨物輸送重量 Revenue Ton	△ 1.3	+ 2.5	+ 0.7	+ 13.8	+ 15.1	+ 14.5
	重量利用率(%) Load Factor (%)	22.0	24.8	23.3	63.0	64.5	63.8
	**ユニットレベニュー(円) Unit Revenue(¥/ATK)	15.2 (△ 6.6)	17.5 (△ 0.3)	16.3 (△ 3.4)	22.6 (+ 5.3)	24.0 (+ 8.1)	23.4 (+ 6.8)
	**単価(円) Unit Price(¥/RT)	68 (△ 2.4)	70 (+ 1.5)	69 (△ 0.4)	147 (+ 4.2)	151 (+ 9.5)	149 (+ 7.0)
【参考:上記内数】 フレイター Freighter	有効貨物トンキロ Available Ton km	+ 1.4	△ 36.5	△ 18.2	+ 12.1	+ 14.0	+ 13.1
	有償貨物トンキロ Revenue Ton km	△ 1.4	△ 55.9	△ 33.1	+ 18.0	+ 24.4	+ 21.4
	貨物輸送重量 Revenue Ton	+ 6.6	△ 47.2	△ 23.3	+ 12.3	+ 17.9	+ 15.2
	重量利用率(%) Load Factor (%)	32.1	29.9	31.2	60.8	67.5	64.3
	**ユニットレベニュー(円) Unit Revenue(¥/ATK)	43.2 (+ 0.6)	42.4 (+ 5.8)	42.9 (+ 3.4)	40.0 (+ 5.6)	43.9 (+ 13.3)	42.0 (+ 9.6)
	**単価(円) Unit Price(¥/RT)	129 (△ 4.4)	136 (+ 27.2)	132 (+ 10.3)	120 (+ 5.4)	123 (+ 9.5)	122 (+ 7.6)

IV. 補足資料



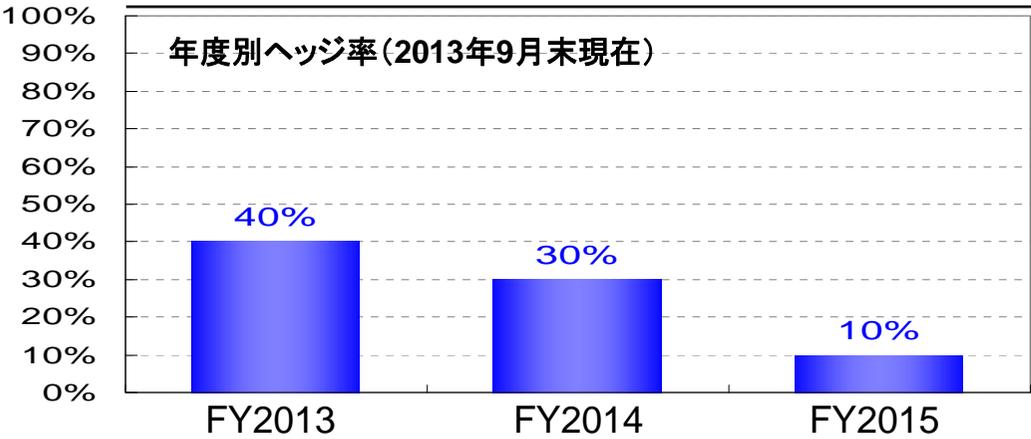
補足資料

燃油・為替情報

燃油

	上期実績	下期前提値
ドバイ原油	US\$103.5	US\$102
シンガポールケロシン	US\$119.7	US\$120

(注: 下記感応度は、ヘッジ効果を含まず)

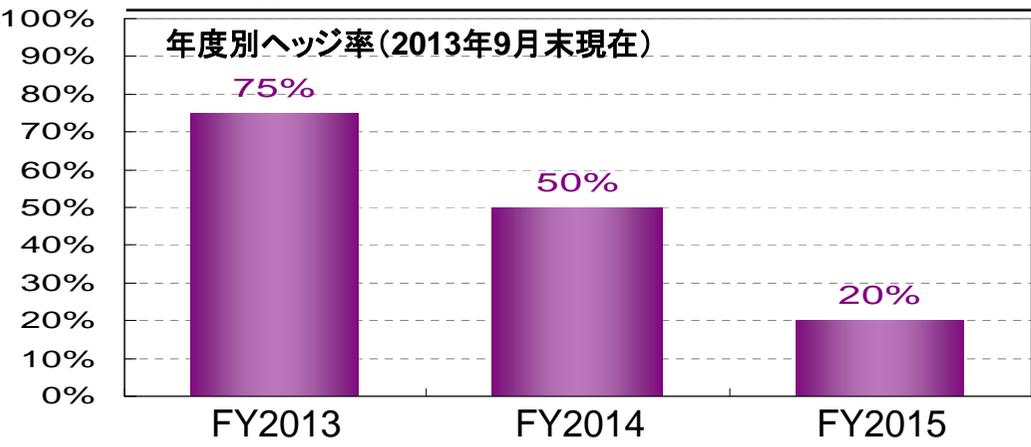


燃油費

燃油US\$1
感応度
23億円

為替

	上期実績	下期前提値
為替レート	US\$:98.9円	US\$:100円



補足資料

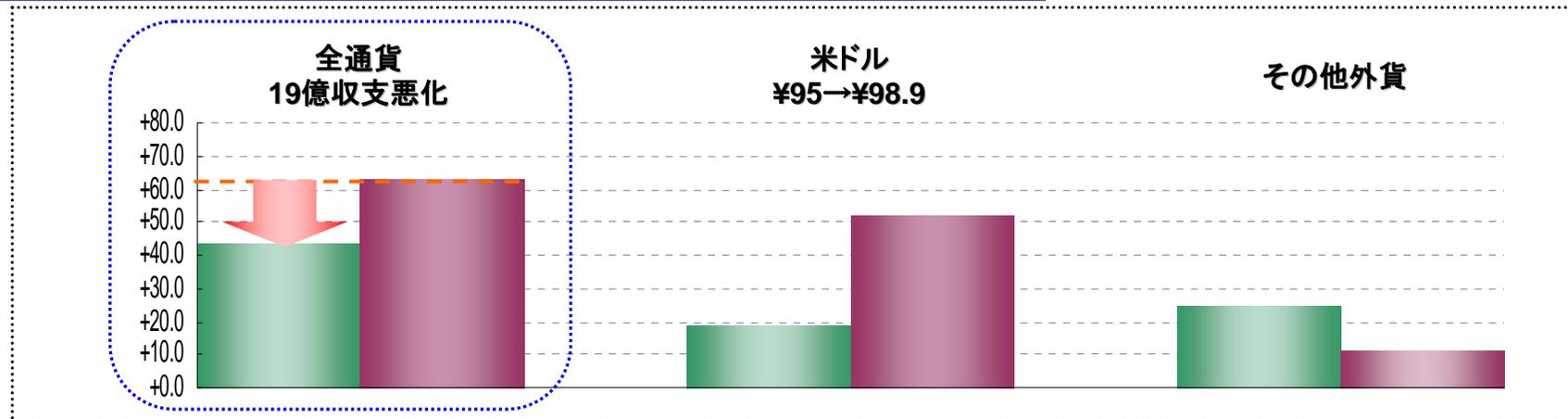
2014年3月期 為替変動の収支影響

(営業損益ベース/ヘッジ効果込み、単位:億円)

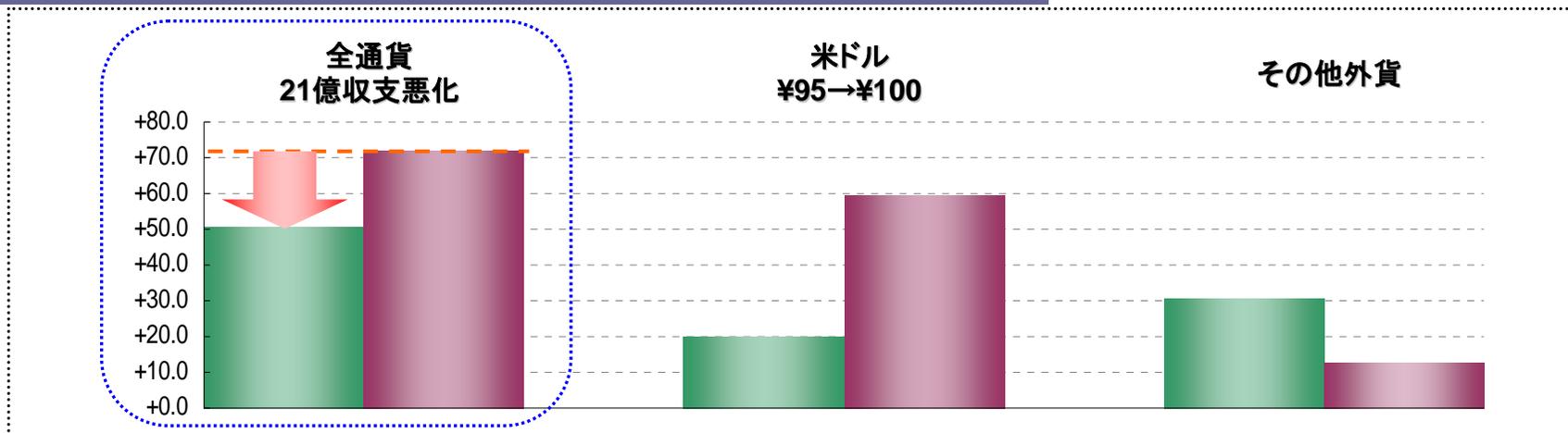
収入

費用

上期実績 (4月30日付 業績予想前提レート vs. 期間加重平均実績)



下期予想 (4月30日付 業績予想前提レート vs. 10月30日付 業績予想前提レート)



補足資料

国際旅客 方面別実績

(AirAsia Japan含まず)

		第2四半期 累計構成比 1H/FY13 Composition	前年差 Difference	第2四半期 構成比 2Q/FY13 Composition	前年差 Difference
旅客収入 Revenue	北米 North America	31.2	+ 3.7	31.3	+ 3.8
	欧州 Europe	20.9	△ 1.3	20.6	△ 2.2
	中国 China	16.4	△ 1.9	17.0	△ 0.5
	アジア Asia	27.2	△ 0.1	26.4	△ 0.3
	リゾート Resort	4.4	△ 0.4	4.6	△ 0.8
座席キロ ASK	北米 North America	34.3	+ 5.3	36.0	+ 6.2
	欧州 Europe	19.3	△ 2.3	18.3	△ 2.9
	中国 China	13.2	△ 1.4	13.1	△ 1.4
	アジア Asia	28.3	△ 1.1	27.7	△ 1.2
	リゾート Resort	4.9	△ 0.5	4.8	△ 0.7
旅客キロ RPK	北米 North America	34.8	+ 4.3	35.1	+ 4.5
	欧州 Europe	19.7	△ 1.3	19.0	△ 2.2
	中国 China	11.0	△ 1.9	11.9	△ 0.8
	アジア Asia	28.9	△ 0.8	28.6	△ 0.8
	リゾート Resort	5.6	△ 0.3	5.5	△ 0.7

補足資料

国際貨物 方面別実績

		第2四半期 累計構成比 1H/FY13 Composition	前年差 Difference	第2四半期 構成比 2Q/FY13 Composition	前年差 Difference
貨物収入 Revenue	北米 North America	21.1	+ 1.3	21.2	+ 2.1
	欧州 Europe	14.5	△ 0.9	14.2	△ 1.1
	中国 China	37.2	△ 0.6	37.5	△ 2.1
	アジア Asia	20.0	△ 0.5	20.1	+ 0.6
	その他 Others	7.2	+ 0.6	7.0	+ 0.4
有効貨物トンキロ ATK	北米 North America	37.4	+ 5.8	39.0	+ 6.3
	欧州 Europe	21.5	△ 2.5	19.9	△ 3.7
	中国 China	17.4	△ 3.5	17.0	△ 3.7
	アジア Asia	19.7	+ 0.3	20.2	+ 1.4
	その他 Others	4.0	△ 0.1	3.9	△ 0.2
有償貨物トンキロ RTK	北米 North America	38.4	+ 3.9	39.1	+ 4.8
	欧州 Europe	23.7	△ 3.7	22.8	△ 4.6
	中国 China	15.9	△ 1.4	15.8	△ 2.3
	アジア Asia	17.8	+ 1.0	17.9	+ 1.9
	その他 Others	4.2	△ 0.1	4.4	+ 0.2

補足資料

運用航空機数		前年度末 Mar, 2013	当期末 Sep, 2013	増減 Change	保有機数 Owned	リース機数 Leased
大型機 Wide-Body	Boeing 747-400 (Domestic)	5	4	△ 1	4	0
	Boeing 777-300ER	19	19	-	16	3
	Boeing 777-300	7	7	-	7	0
	Boeing 777-200ER	10	12	+ 2	7	5
	Boeing 777-200	16	16	-	14	2
中型機 Mid-Body	Boeing 787-8	17	23	+ 6	23	0
	Boeing 767-300ER	26	26	-	6	20
	Boeing 767-300	25	23	△ 2	23	0
	Boeing 767-300F	2	2	-	0	2
	Boeing 767-300BCF	7	7	-	7	0
小型機 Narrow-Body	Airbus A320-200 *	22	21	△ 1	17	4
	Boeing 737-800	21	23	+ 2	22	1
	Boeing 737-700ER	2	2	-	2	0
	Boeing 737-700	14	13	△ 1	10	3
	Boeing 737-500	16	15	△ 1	14	1
リージョナル機 Regional	Bombardier DHC-8-400 (Q400)	20	21	+ 1	9	12
	Bombardier DHC-8-300 (Q300)	1	1	-	1	0
合計 Total		230	235	+ 5	182	53

* AirAsia Japan 運用機数 4機(全てリース機)含む

** 2013年9月末現在、グループ外にリースしている機数を除く(当期末 14機、前年度末 13機)

免責事項

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社の主要事業である航空運送事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証しているものではありません。

Intentionally Blank

Intentionally Blank

ANAグループの目指すもの

グループ経営理念

安心と信頼を基礎に
世界をつなぐ心の翼で
夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である
私たちはお互いの理解と信頼のもと
確かなしくみで安全を高めていきます
私たちは一人ひとりの責任ある
誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、
お客様満足と価値創造で
世界のリーディングエアライングループを目指します

ご清聴ありがとうございました。

Thank you.

当資料はホームページでもご覧いただけます。

This material is available on our website.

<http://www.anahd.co.jp>

(ホームページをリニューアルしました)

[日本語]株主・投資家情報 → IR資料室 → 決算説明会資料



ANAホールディングス株式会社 財務企画・IR部

電話番号 03(6735)1030(代) メールアドレス ir@anahd.co.jp

(会社名・部署名・メールアドレスが変更になりました)